

# GAP Japan 2022 -SDGsの達成に貢献するGAP認証-

オープニングトーク

## JGAP/ASIAGAPの今後の展開

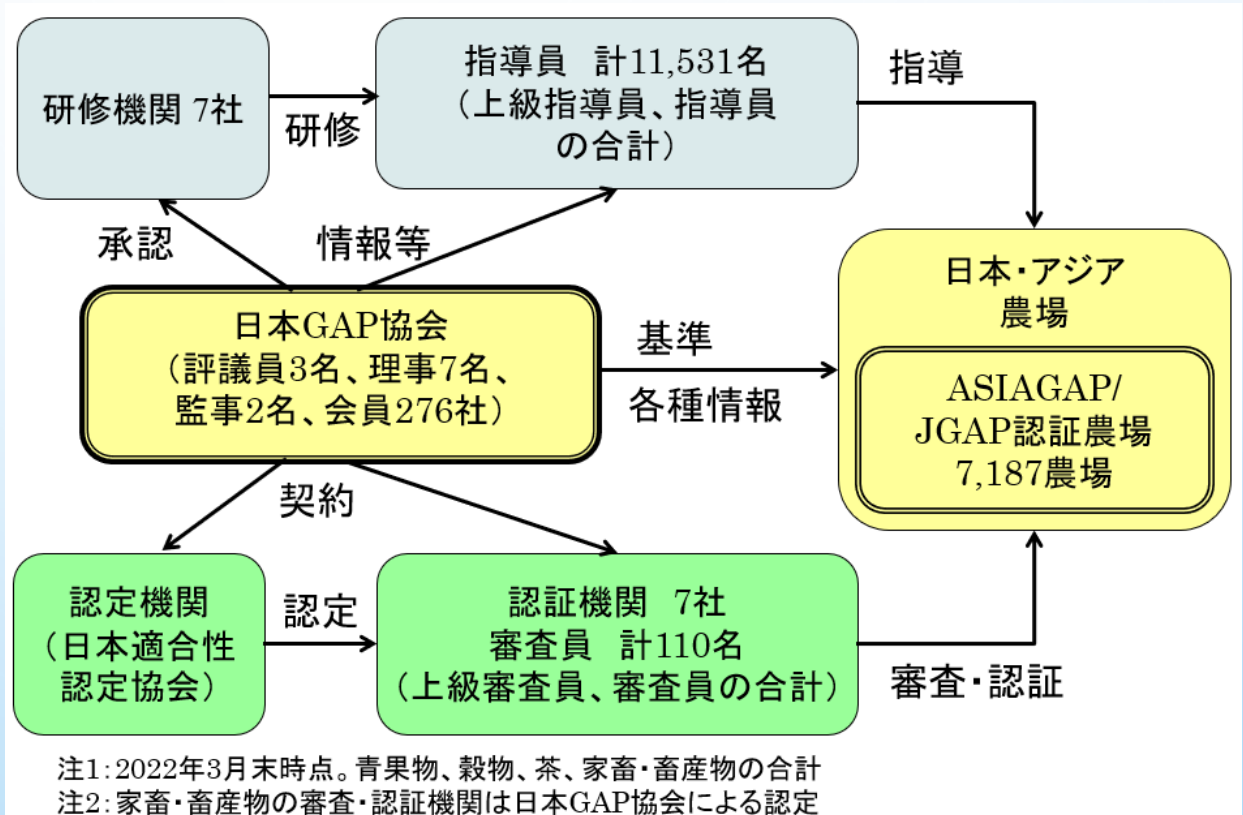
一般財団法人日本GAP協会 代表理事専務  
荻野 宏

## これまでの主なトピック

- ✓ 食中毒事故の発生等を契機に2000年頃からGAPへの注目が高まり、流通・JA・行政等、多様なGAPが日本国内で運用
- ✓ 日本GAP協会が第三者認証の本格的GAPであるJGAPを運用開始（2007年）
- ✓ 農林水産省「農業生産工程管理（GAP）の共通基盤に関するガイドライン」が策定（2010年）
- ✓ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における農産物、畜産物の食材調達基準への採用（2017年）
- ✓ ASIAGAPがGFSI（\*）の承認を取得（2018年）
  - \* GFSI（Global Food Safety Initiative）・・・世界の食品事業者から成る非営利団体。中心的な活動の一つとして、食品安全にかかわる認証プログラムについて、その適合性を判定・承認する仕組み（ベンチマーク）を提供し、適合性を監査。GFSI から承認された認証プログラムは、信頼に足る食品安全の認証制度として支持される。
- ✓ 農林水産省「食料・農業・農村基本計画」においてGAPの推進が明記（2020年）
- ✓ 農林水産省「我が国における国際水準GAPの推進方策」および「国際水準GAPガイドライン」の策定（2022年）
- JGAP、ASIAGAP、GLOBALG.A.P.の認証数の増加に加え、農水省ガイドラインに準拠したGAPを策定する都道府県が増加し取組数も大幅に増加
- 食品事業者からの支持の広がり

# JGAP/ASIAGAPのいま

- ✓ 認証農場数 7,187、認証数 2,161 (2022年3月末時点)
- ✓ JGAP、ASIAGAP指導員数 11,531名 (同上)
- ✓ JGAP基準書
  - ・ 2016 (青果物、穀物、茶)
  - ・ 2017 (家畜・畜産物)
- ✓ ASIAGAP基準書
  - ・ Ver.2.3改定第1版 (青果物、穀物、茶)
- ✓ 公認研修
  - (基礎、団体認証、現地、審査員、IPMなど)
- ✓ ロゴマーク
  - (累計発行数 1,315 2021年末時点)



# GAPとSDGs

未来のあたりまえをつくる、つなげる、ささえる。

知っていますか？

## SDGsと農業の関わり

**JGAP/ASIAGAPの7つの取り組み**

- 農場管理
- 食品安全
- 環境保全
- 家畜衛生
- アニマルウェルフェア
- 人権の尊重
- 労働安全

結びつくSDGsの目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JGF 一般財団法人 日本GAP協会

取り組み	内容	結びつく SDGs 目標とターゲット
農場管理	生産工程管理による手順を見える化し、適切な農場管理を行います。	2.4 持続可能な食料生産システムを確保し、強靱な農業を实践する。 8.4 世界の消費と生産における資源効率を改善させ経済成長と環境悪化の分断を図る。
	役割分担を明確にし、働きがいのある職場環境を作ります。技術的なスキル向上のために、作業者に教育の機会を設けます。	4.4 技術的・職業的スキル、雇用、働きがいのある人間らしい仕事を増加させる。
	持続可能な農業、環境への負荷、社会のニーズを考慮した農畜産物を提供します。	12.8 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。 17.17 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。
	災害に備えた農業生産に取り組みます。	13.1 気候災害や自然災害に対する強靱性及び適応力を強化する。
食品安全	工程ごとにリスク評価と対策をして、安全な農畜産物の生産を提供します。	2.3 安全かつ栄養のある食料を十分に得られるようにする。
	水、土、肥料、飼料、農薬、動物用医薬品など使用する資源の安全を確認し、適切な管理を行っています。	3.9 有害化学物質、大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。 12.4 人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を削減する。
環境保全	農業生産から出る廃棄物の削減、有効利用に取り組みます。	6.3 汚染の減少、有害な化学物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減により、水質を改善する。 12.5 廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
	廃棄物の適切な保管・処理を行い、環境への影響を最小限に抑えます。温室効果ガスの発生抑制やエネルギーに取り組みます。	7.3 エネルギー効率の改善率を倍増させる。 13.3 気象変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。
	農業生産が及ぼす生態系への影響を考慮し、生物多様性に配慮した活動に取り組みます。	9.4 クリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大や産業改善により、持続可能性を向上させる。
	農業生産で利用する外来生物が生態系を乱さないよう適切に管理します。	14.1 富栄養化など、あらゆる種類の海洋汚染を防止する。 15.1 生態系の保全、回復及び持続可能な利用を確保する。 15.8 外来種の侵入を防止する。
人権の尊重	人種、国籍、性別などによる雇用や昇給、賃金差別をなくします。	5.1 あらゆる形態の差別を撤廃する。
	労働者の意思に反した労働を強制しません。	8.5 完全かつ生産的な雇用、働きがいのある人間らしい仕事、同一労働同一賃金を達成する。
	労働者の働く権利を尊重し、働きがいのある職場環境を作ります。	8.7 強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終わらせる措置の実施、児童労働の禁止と撲滅を確保する。 8.8 すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。
労働安全	作業者が安全に働ける労働環境を作ります。	3.6 世界の交通事故による死者を半減させる。
	作業者が安全に作業できるように、過去に起きた事故事例やヒヤリハットをもとに安全な作業手順を作ります。	8.8 すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。
家畜衛生	衛生的な飼育環境で家畜を健康的に育て、安全な畜産物を提供します。	2.4 持続可能な食料生産システムを確保し、強靱な農業を实践する。
	家畜に不必要な苦痛を与えないように配慮し、家畜にとって快適な飼育環境を目指します。	12.8 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。 15.1 生態系の保全、回復及び持続可能な利用を確保する。
アニマルウェルフェア		

## JGAP/ASIAGAPの今後の展開

1. 先進的かつ取り組みやすい基準書への改定（JGAP2022近日公表予定）
2. 公認研修の刷新と充実（改定JGAP対応など）
3. 普及・広報活動の強化
4. 食品事業者との連携の推進
5. 海外への対応（国際団体との協働、アジアへの普及）



## 本日のポイント

- ✓ SDGsへの理解と、その達成に貢献するGAP認証
- ✓ GAPに関する種々の活発な取組
- ✓ 行政、食品事業者からの強力な支持
- ✓ ステークホルダー間の連携
- ✓ GAP普及大賞、GAP実践大賞の好事例

★農業のSDGs = GAP

